

令和6年度

少年の主張 全道大会

発表作品集



公益財団法人北海道青少年育成協会
北 道
独立行政法人国立青少年教育振興機構

目次

はじめに

公益財団法人北海道青少年育成協会会長 山谷 吉宏	1
--------------------------	---

令和6年度「少年の主張」全道大会 PHOTO

	2
--	---

講評

審査員長 鏡 武志（北海道中学校長会情報部副部長／苫小牧市立和光中学校長）	4
---------------------------------------	---

作品集

【最優秀賞】

未来に咲く今	数馬 灯里（恵庭市立恵み野中学校3年）	6
--------	---------------------	---

【優秀賞】

「とくべつなふつう」	鎌田 千弦（札幌市立平岡緑中学校2年）	7
しあわせの形	尾坂 空音（岩見沢市立明成中学校1年）	8
未来の舵取りを担う	藤原 拓也（鶴居村立鶴居中学校3年）	9

【奨励賞】（地域順）

ジェンダーの平等の実現に向けて	細川 優菜（札幌市立日章中学校3年）	10
「かわいそう」は無責任	光枝 美優（礼文町立香深中学校3年）	11
一步を踏み出して	貝島 優羽（倶知安町立倶知安中学校3年）	12
私らしい生き方	山本結千花（浦幌町立浦幌中学校3年）	13
多様性の時代	篠田 涼帆（長万部町立長万部中学校3年）	14
雑草	河本さくら（別海町立上春別中学校2年）	15
言葉の力とは	白井遙ノ椀（洞爺湖町立虻田中学校3年）	16
男女差別	糸畑 雫（江差町立江差北中学校2年）	17
挑戦	高林 恵（遠軽町立南中学校3年）	18
青春のありか	平田 琴音（様似町立様似中学校3年）	19
油断から広がる危険性	田村里々香（遠別町立遠別中学校3年）	20
性別をこえた平等へ	大串 雪花（北海道教育大学附属旭川中学校3年）	21

参考

令和6年度「第46回少年の主張全国大会」～わたしの主張2024～内閣総理大臣賞受賞作品	22
---	----

資料

大会のねらい／大会のあらまし／審査員	23
令和6年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会の開催状況	24
令和6年度「少年の主張」実施要領	25

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並びに優秀賞受賞者名簿

	27
--	----

はじめに

「少年の主張」全道大会は、昭和54年の国際児童年の制定を期に始まりました。

この大会は、人格を形成する上で重要な時期にあたる中学生が、日常生活を送る中で感じていることや社会に向けての意見、未来への希望などを中学生自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会です。これにより、同世代の中学生に周囲の人々や社会との関わりについて、より深く考えていただき、社会の一員として自覚していただく契機とすること、また、道民の皆様が中学生の考え方、感じ方、意見等に直接触れることにより、青少年育成への理解と関心を深めていただくことを目的として開催しています。

今、少子高齢化、国際化、情報化等が急速に進展する中、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。そのような中で、彼ら・彼女らの主張に真摯に耳を傾けることは、私たち大人にとっての責任でもあると考えます。

今年の「少年の主張」には、道内275校から21,811名の参加がありました。これからの北海道を担う輝かしい存在である参加者の皆さんは、自分たちの意見を発表することを通じて、広い視野と柔軟な発想を育むこと、論理的に物事を考えること、自分の主張を他の人に正しく伝える力など大きな力を身につけたものと思います。

地区大会を経て、16名が発表した全道大会では、初めてライブ配信を実施し、会場に来られなかった全道や全国の方々にも大会の臨場感や一体感を感じてもらえたと思っています。

16名の皆さんの生き生きとした主張を掲載したこの作品集を、一人でも多くの方に読んでいただけることを願いつつ、本大会を開催するに当たりご協力いただいた関係の皆様にご心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

令和6年12月

公益財団法人北海道青少年育成協会
会 長 山 谷 吉 宏



令和6年度「少年の主張」全道大会 PHOTO







全体講評

中学生の瑞々しい感性に触れ、このコンクールに携わった時間はあっという間に過ぎていきました。

まずは、16人の参加者の皆さんの本日までの努力を大いに称えます。

テーマを決め、主張内容をまとめることは大変な作業だったと想像します。人前で自分の心の中のことを話すという行為は相当困難で、勇気のいることです。自分や家族の身の回りで起こった辛い出来事を乗り越えていく様子や、友達や地域の大人との関わりの中で課題を発見し、それを解決していこうとする取組、すぐに動き出せない自分自身と葛藤し、弱さを受け入れ、それでも前進していこうとする姿など、どれもが心を揺さぶられるものばかりでした。

自分の今までの生き方との整合性を幾度となく問い直し、「自分らしさのブラッシュアップ」に取り組んだはずですが、この経験を通して、他者との関係性の中でさらなるアイデンティティーを見出したことで、皆さんは大きな成長を果たしたものと推察いたします。

さらに、そうした経験を自分の周りにとどめずに、地域や世界へと開いていく行動がとれていることに驚きました。

社会ではさまざまな問題が生じています。単純な正義などどこにもなく、そのどれもが不透明で、解決が困難なものばかりです。だからこそ、今を生きる私たちには、見通せない未来にひるむことなく、複雑な現実をありのままに理解し、受け入れ、行動する知性と勇気を培っていくことが、求められています。

そんなVUCAな世界に目をやり、多様性、ジェンダーフリー、SDGsといった現代社会の象徴的なキーワードを常識の一つとして扱い、問いを立て、自他の違いを個性として尊重し、協働的な社会を目指そうとする言動はとても大きな意味があります。北海道、さらには日本の未来も明るいと思われたいところです。

非連続的とも言える内容で急速に進むDX。日々、世界のどこかでイノベーションが起きていると言っても過言ではありません。その筆頭が生成AI。年や月ではなく、週単位で技術革新が進んでいると聞きます。

そんなAIの時代になっても、否そんなAIの時代に生きていくからこそ、対話するというこ

と、すなわち言葉を通して心を伝え磨き合うことで、私たちは豊かな情緒を育み、見通せない未来を希望に満ちたものとし、自らを幸せな人生の主人公にすることができると考えます。

なぜなら、人はやはり人との絆を求め、そこに希望を見出していくからです。そしてその絆は、傷つけたり傷つけられたりすることに怯えながらも勇気を出してつながり続けることで、ようやく象られていくものだからです。

「なるほど」「そんなふうに思っているんだ」など、皆さんの新鮮な見方や考え方に触れ、私自身アンラーンされました。熱く、ときに鋭く、ときに温かく、豊かな表現力で語ってくれた今ここにいる皆さんに感謝します。

私がそうであったように、本日の参加者の皆さんも互いの発表を聞く中で、多くの刺激と示唆を得ることができたことと思います。全道各地から集まってきた仲間です。お互いに積極的に声を掛け合い、「あなたの発表に興味をもちました」「ここをもう少し教えて下さい」と意見を、是非交流してみてください。そんな仲間との連携の先にも、これからの社会の明るい地平が見える思いです。

審査については、論旨5観点、論調3観点の計8観点を5人の審査員で審査しました。皆さんの真摯な思いに応えるべく、我々審査員も原稿を何度も読み込み、発表者への尊敬の念を抱きながら、内容の理解に努めました。

最優秀賞を受賞された、恵庭市立恵み野中学校の数馬さんの主張は、自らの意志と責任で行動し、豊かな人生を切り拓いたお兄さんの姿から、未来は見通せないものだからこそ、不安を募らせるのではなく、「今」というこのときをどれだけがんばるかが大切と教えられたことが、等身大の言葉で綴られた素晴らしい内容のものでした。

優秀賞の3人の皆さんにつきましても、最優秀賞とは僅差であり、また奨励賞になった12人の皆さんも立派な主張でした。

結びに、お子様の大会出場を温かく後押ししていただいた保護者の皆様、御指導を頂きました先生方、各学校単位において参加された中学生の皆さん、大会運営にあたられた多くの関係者の皆様に御礼を申し述べ、全体講評とさせていただきます。

個人講評

■ 細川 優菜 (ほそかわ ゆうな) さん 「ジェンダーの平等の実現に向けて」
「生徒会長」という自らの立場を内閣総理大臣と照らし合わせ、リーダーとしての資質・能力を切り口にジェンダーについての考察を深めています。生物学的な性とは別に、社会的・文化的に象られた性であるジェンダーについて、だからこそ「無意識の偏見」に囚われないことの重要性を指摘し、「ジェンダーギャップ指数」に基づき我が国の現状に対して問題を提起しています。SDGsと関連させながら検討したジェンダー平等の実現に向けた具体策には、学校生活でも既に実際に取り組んでいることもあり、説得力があります。

■ 光枝 美優 (みつえだ みう) さん 「『かわいそう』は無責任」
自らの家庭環境に対して友人から投げかけられた「かわいそう」という言葉。この言葉に傷つき、悔しい思いをした光枝さんですが、それに留まらず、なぜそう思われるのかを調べ、それがいかにステレオタイプの見方なのかということを実証的に説明していきます。そして、家族の幸せは、その形態ではなく、そこで交わされる言葉やその背景にある愛情によって形成されるのだと主張しています。「かわいそう」で終わらせることなく、自分がそうしてもらったように、いかに周囲の人を思いやり行動していくのか。これこそがまさに責任ある態度です。

■ 貝島 優羽 (かいしま ゆうは) さん 「一步を踏み出して」
自信を失い、一度は心も体も引きこもってしまいましたが、級友とのコミュニケーションを通して自分を開いていった経緯を丁寧に論述しています。思春期を迎えると、自我の芽生えとともに他者との関係で自分の存在意義をなかなか見いだせなくなることがあります。しかし、それでも自分の価値に気付かせてくれるのもまた他者です。悩み苦しんだ体験から、自他の可能性を信じ、「行動に移さな限り何も変わらない。『逃げるばかりじゃダメ』」と呼びかける言葉は、多くの中学生に勇気を与え、一步を踏み出す力となるはずで

■ 尾坂 空音 (おさか そらね) さん 「しあわせの形」
幼少期に高熱を発し、以降病気と闘い、多くの時間を病院や自宅のベッドで過ごすこととなったお姉さんの生活との関わりを通して、「しあわせ」の形や意味について考察を深めています。家族はもとより多くの人の優しさに包まれながら、短いながらも豊かな時間を過ごしたお姉さんの人生に心打たれるとともに、自分の人生をとりまくすべての環境は実は「有難いものだと」気付いた尾坂さんの成長を頼もしく思います。そんなことを考え、気付かせてくれるきっかけとなったお母さんの言葉とその背景にある願い、これからも大切にしてください。

■ 山本 結千花 (やまもと ゆちか) さん 「私らしい生き方」
LGBTQ等の多様性を認め合う概念が一般化しつつある現在においても、同調圧力を感じ、それを拒否したときは「変わった子」扱いを受けるという矛盾に対して、多様性を実現するための提案主張です。「私らしさ」は長所にも短所にもなるという認識の下、それでも発揮し、他者との摩擦でブラッシュアップされ、自身の確かな成長につながっていくという論旨の展開は明瞭で説得力があります。このような関係性を相互に認め、実践していくことで多様性を包摂する社会が実現していくことでしょう。そして、これは「北海道が目指す教育の理念」である「自立」と「共生」にもつながることです。

■ 篠田 涼帆 (しのだ すずほ) さん 「多様性の時代」
多様性という言葉が社会全体で受け入れられ、一人一人の見方や考え方が異なっているのが本来「普通」なのに、実際の生活では「普通」という言葉で思いや行動が一つの価値観に紐づけられてしまう現状をいねいに分析しています。デジタルネイティブなどと呼ばれるZ世代。SNSで自分の生活を晒す代わりに、他人の日常も共有することが当たり前となり、他人にどう見られているかということに強く意識されると言われています。だからこそ、篠田さんの自分と異なる考えに出会ったとき、違いを認め、理解することが自分や社会を豊かにするという主張には、とても大きな意味があります。

■ 河本 さくら (かわもと さくら) さん 「雑草」
ふと気が付けば足元に生えている様々な草たち。表情も違えば、当然のことながらそれぞれに違う名前も付けられている。にもかかわらず「雑草」と一括りにされてしまっているということに端を発し、人に対しても同じことをしていないかという問題意識を抱き、自他の個性を大切にすることの重要性を提起してくれています。少し前に流行った歌に「僕らも世界に一つだけの花」というフレーズがありました。ただ咲かせるだけでは足りません。その花を互いに認め合っ

■ 白井 遥ノ花 (しらい ののか) さん 「言葉の力とは」
言葉は、心を切り裂くこともあるれば、ポカポカと温かくさせることもあります。まさに「ペン」は剣よりも強し。そんな認識の下、昨今のSNSによる誹謗中傷という社会問題に向き合っています。多くの中学生にとって切実な問題であり、適切な対応はこれから生きる上で必須となる資質・能力となるものです。ネガティブな言葉で簡単に周囲とつながることがありますが、そんな関係性から得られるものはありません。部活動を通して、前向きで温かな言葉で仲間と心が繋がり、自分自身も励まされ成長を実感できたことは貴重な経験となるはずで

■ 糸畑 雫 (いとた しずく) さん 「男女差別」
日常生活を取り巻くジェンダーバイアスに思いを致し、それが差別や偏見になっていく現状を問題提起しています。「おじいさんは山に芝刈りに、おばあさんは川に洗濯に」とは日本の昔話の一節。誰もが一度は耳にしたことがあるでしょう。無意識にジェンダーバイアスが刷り込まれています。ジェンダーバイアスがなかなか解消しない原因の一つはここにあります。この解決困難な課題に対し、正直に「難しい」と言える姿勢に好感がもてます。だからこそ、それでも考え、絞り出した解決策には説得力があります。「当たり前を見直す」、このことはすべての問題解決に共通する姿勢です。

■ 藤原 拓也 (ふじわら たくや) さん 「未来の能取りを担う」
美しく豊かな鶴居村の描写から始まるこの主張。もうこれだけで、藤原さんがどれだけ故郷である鶴居村を愛しているかが伝わってきます。だからこそ、鶴居村の未来の姿を築きつつ、自らの進路を考える姿に強さと真剣さを感じます。鶴居村を外と内から眺め考えることで得ることができた「大人任せにせず、自分たちも当事者意識をもって考え、行動していくことが大切」という知見は、多くの中学生に獲得してもらいたいものです。将来の夢は、結局は今の自分の足元から始まるものです。複雑さや困難さにひるむことなく、解決に向けた挑戦を続けてください。

■ 鎌田 千弦 (かまだ ちづる) さん 「『とくべつなふつう』」
女子である自分の給食でのおかわりがどう思われているのか、ということから私とあなた、そして彼・彼女の「ふつう」に思いを巡らせ、それぞれの「ふつう」が「とくべつなふつう」で傷つけることを論理的に述べています。その「とくべつなふつう」は、人を傷ついたり、人に迷惑をかけた

■ 高林 恵 (たかばやし めぐむ) さん 「挑戦」
失敗や不安が先に立ってしまい、何をしてもは臆病になっていた高林さんでしたが、同じ気持ちを抱えながらもそれを乗り越えようとする友人に触発され、自らの殻を破り、成長につなげた姿は、多くの中学生が共感し、勇気付けられるのではないのでしょうか。努力をしたからといって、それが必ず報われるとは限りません。むしろ、報われないことの方が多

■ 平田 琴音 (ひらた ことね) さん 「青春のありか」
「私は今、悩んでいます」という印象的なフレーズから始まるこの主張。聴き進めていくと「青春」に取り残されている自分に焦っていることが描かれていました。しかし、友人との会話から、それは刷り込まれていたイメージとのギャップであることに気づき、変化や刺激がないと勝手に焦っていた時間に実はかけがえのない価値や意味があったことを理解しました。無邪気に過ごしていた幼少期と違ってかかって、一人では埋めつ

■ 田村 里々香 (たむら りりか) さん 「油断から広がる危険性」
SNSを介した小中学生のコミュニケーションに潜むリスクとその対策について、自身の経験を踏まえての提案主張です。SNSを適切につかこなすためには高度な判断力が必要となります。だからこそ、契約者となる保護者の責任を指摘し、「いつから」「どのようなルールで」という視点でのルールを求め

■ 大串 雪花 (おおくし ゆか) さん 「性別をこえた平等へ」
同級生の男子がヘアピンをつけていたところ、「男子だから」という理由で注意されたことに端を発し、「男らしさ」「女らしさ」という日本社会で象られたイメージと、それを取り除いていこうとするジェンダーレスの思考・概念について検討しています。秀逸なのは、自分が感じた違和感や思い考えたことを先生や友人に問題提起し、議論しているところです。VUCAと呼ばれるこれからの社会。単純な問題などありません。他者を価値ある存在として尊重し、違いを尊重しながら最適解を見出していくことが求められています。それを既に実践している大串さんは頼もしいです。

■ 数馬 灯里 (かずま あかり) さん 「未来に咲く今」
自らの意志と責任で行動し、豊かな人生を切り拓いたお兄さんの姿から、未来は見通せないものだからこそ、不安を募らせるのではなく、「今」というこのときをどれだけがんばるかが大切と教えられたことが、等身大の言葉で綴られています。環境のせいにしてできない・やらない理由を探す人生と、どんな状況にも言い訳をせずにそこに価値や意義・目標を見出す人生、どちらの人生の主人公を目指すべきなのか。最後のお兄さんの言葉が力強く指し示してくれています。今日がこれまでの結果であるように、未来は今が創ります。「過ぎた」ではなく「過ぎた」という時間を積み重ねてください。

最優秀賞 (北海道知事賞)



未来に咲く今

恵庭市立恵み野中学校3年

かずま あかり
数馬 灯理

皆さんには、夢や目標はあるだろうか。私には今のところ、具体的に夢と呼べるほどのものはなく、そういった夢を持つ友達を見ると、焦りや不安を感じていた。でも、そんな気持ちを和らげてくれた存在がいる。それは意外にも兄であった。

私には、今年成人式を迎えた兄がいる。高校卒業後、上京してすぐに働き、社会人三年目になる。兄は勉強が苦手で、さらに反抗期で、学校も行ったり行かなかったりした時期があり、両親や担任の先生から卒業を危ぶまれるほど心配されていた。そんな兄ではあったが、あるときファッションに興味を持ち、高校二年生ごろからアパレル業界で働きたいと言うようになった。しかし、高校にアパレル業界からは求人が来ていないことを知ると、高校三年生の夏休みに、北海道から独り飛行機に乗り、東京・大阪で開催されていた高卒対象者の合同企業説明会に参加するなどしていた。残念ながら、コロナ禍の影響もあったのか、アパレル業界の求人はそこにも来てはいなかった。兄は希望していた職種ではなかったものの、いくつか求人を見つけ、最終的には配送業に就職した。結局、兄の夢は叶わなかったのだ。そんな兄を見て、私は思った。「飽きっぽい性格の兄だから、希望職種じゃない仕事なんて長続きしないだろう」と。しかし、結果は意外なものだった。持ち前のコミュニケーション能力と、効率の良い仕事ぶりが評価され、この春からは一つの店舗を任せられるまでになったのだ。学生時代は劣等生のレッテルを貼られ、希望する職種にも就けなかった兄なのに、今は職場から高い評価を得て、配送業という仕事に誇りを持ちながら生き生きと働いている。今思えば、兄は誰の助けを借りるでもなく自ら行動し、すべてを自分の意思で決断していた。当初の希望が叶わなくて

も、置かれた状況に文句を言うわけでもなく、そこでやりがいを見出し、自分で輝くための努力をしていたのである。

そんな兄を見ていて思い出した言葉がある。SNSで見かけた「置かれた場所で咲きなさい」という言葉だ。私は今までこの言葉を、辛くても我慢してそこで咲きなさい、という意味だと思っていた。

でも、違うのではないだろうか。この言葉は、兄のようにどんなところに置かれてもやりがいを見出し、自分次第でいくらかでも輝くことはできる、という意味なのではないだろうか。

一年に数回兄が帰省すると、母と楽しそうに仕事での出来事について話している。私は、今まで夢や目標をなんとか見つけようと焦る気持ちでいっぱいだったが、無理に夢を見つけなくても、その時その時に置かれた状況を自分の中で出来る限り楽しむことができれば、それでいいのではないかと考えるようになった。私はそう思うことで、「未来」だけではなく「今」を大切に、どう楽しむかをいつも考えている。

私たちはこれからたくさんの壁にぶつかり悩むことがあるだろう。必ずしも自分の希望通りになるかどうかは分からない。でも、いつだって私の人生の舵を切るのは私だ。兄のように、どこにいてもその場所の良さを見つけ、精いっぱい楽しめるような豊かな人生を、この先歩んでいくために、どんなことでも挑戦し、積極的に取り組めるような主体性を持って行動したい。

幼少期のころは、

「どうせ俺なんて……」が口癖だった兄。

でも今は違う。

「大人は楽しいぞ、どこにいても、何をやっても。」

こう言い放った兄の笑顔は自信に満ちていた。

優秀賞

(北海道教育委員会教育長賞)



「とくべつなふつう」

札幌市立平岡緑中学校2年

かまだ ちづる
鎌田 千弦

「女子なのにおかわりしてははずかしくないの？」

給食のおかわりに並ぶ私に、クラスメイトがそう声をかけてきました。私は食べるのが大好きだし、それをはずかしいと思ったこともありません。そもそも、好きなものをおなかいっぱい食べることに男女って関係あるのでしょうか？どうして女子がおかわりすることがはずかしいことなのでしょう？その理由を考えたとき、女子は男子より食べる量が少ないのが「ふつう」と考えている人が多いからなのではないかということに気づきました。女子が男子よりたくさん食べているのは「ふつう」じゃない、だから「はずかしい」ということになるのではないかと思います。

では、「ふつう」とは一体なんなのでしょう。辞書で調べてみると、「特別ではないこと」「他と特に異なる性質をもたないこと」とあります。でも、一人一人、性格や好きなものが違うのが当たり前です。ですから、一人一人の「ふつう」も異なっているはず。そう考えると、私にとってはたくさん食べることが「ふつう」だし、給食が苦手な人にとっては男子でも女子でもおかわりしないことが「ふつう」ということになるのではないのでしょうか。

このように、自分と他人の「ふつう」は違うことが多くあると思います。様々な「ふつう」の中で生きていくために、私はまず自分の「ふつう」とは違う他の人の「ふつう」をたくさん知りたと思います。多くの人々の「ふつう」を知っていく中で、相手と自分の「ふつう」が真逆だったりすることもあると思います。そんな時は、無理に自分の「ふつう」を曲げたり、相手の「ふつう」を否定するのではなく、お互いの考えを理解しようとするのがいいと思います。なぜなら、どれもそれぞれの人のにとって大切な、尊重されるべき「ふつう」だからです。もちろん、この「ふつう」は人を傷つけるものであってはいけません。人に迷惑をかけるのは「わがまま」でしかないからです。

一人一人がそれぞれ相手の考え方や価値観を認め合い、お互いの「ふつう」を認め合えるようにな

ればいいと思います。そうすれば、今よりもっとたくさんの方が「ふつう」として、当たり前のこととしてできるようになり、のびのびと生きることができるようではないでしょうか。

六月にメキシコで初の女性大統領が誕生しました。先日の東京都知事選では、女性候補が圧倒的勝利を収めて、三期目を務めることになりました。女性がトップに立つことが多くなったのは素晴らしいことだと思うのですが、やはり「女性が」ということで、これらの情報がニュースなどで大きく取り上げているような気がして、やはりまだまだ「ふつう」ではないのかな、と思います。

以前は女性になるのが「ふつう」だった看護の仕事に男性が進出するようになり、「看護婦」から「看護師」に職名が変わりました。男性の看護師は、力仕事をまかせられたり、男性ならではのコミュニケーションが歓迎されたりして、人数が十年間で二倍になるなど、次第に増加してきています。そういう意味では「ふつう」に近づいてきているはずなのですが、残念ながら男性という理由で介助を拒否されるなど、なかなか男性看護師を「ふつう」と受け止めてもらえない実態もあります。

偏った「ふつう」を乗り越えて活動しようとする人たちが、男性、女性という見方に縛られずに、もっともっと柔軟にいろいろな「ふつう」を受け止めてもらえる社会になっていかなければならないと感じます。

私はきっと、明日も給食のおかわりじゃんけんに参加するでしょう。私の「ふつう」を他の人と違っているからといって間違っているものとしたくないからです。もしかしたら将来、女性初の何かにチャレンジするかもしれません。それだって、私のよく考えた上での「ふつう」なのだからはずかしくありません。

私はこれから、たくさんの方の、たくさんの方の「ふつう」と出会い、認め合いながら、私らしく生きていきたいです。

優秀賞

(北海道PTA連合会会長賞)



岩見沢市立明成中学校1年

しあわせの形

おさか
尾坂
そらね
空音

ある日、母が、私にこんな質問をしてきました。
「あなたにとっての幸せって何？」
その時、私はすぐに答えることができませんでした。みなさんなら、何と答えますか。
私には四才年上の姉がいました。ですが、一才七ヶ月の、やっと話ができるようになってきて、また一つ喜びが増えた、その時、突然、高い熱が出てしまいました。岩見沢市立病院に運ばれ、容態が急変し、夜中に札幌医科大学附属病院に運ばれました。何十時間、何日間にもわたる治療を受けました。笑うことも、一人で息をすることもできなくなってしまいました。命だけは助けてもらうことができました。命が助かった安心感と、たくさんの色々な気持ちが混じり合っていました。少しでも家族みんなが幸せな時間を作りたくて、第二の新しい道を歩み始めました。

まず一番叶えたい目標は、もう一度家に帰って家族みんなと過ごすということです。夢は大きく持つものだと言うけれど、この夢を叶えるにはリスクも大きくて「家に帰る」ただそれだけなのに「一年」という大きな時間がかかりました。姉の担当医、訪問看護師、消防士、北海道電力、町内会長。この人達だけではありません。数えきれないほどの多くの人に関わり、何度も何度も会議を重ね、たくさんの人の力を借りて、家に帰ることができます。

そして、家に帰るといことは医師が常に姉につくことができなくなってしまいます。なので会議を進めると同時進行で一年間かけて在宅医療を家族みんなが一から学びました。そんな、たくさんの人の力を借りて、また家族みんなと過ごすことができました。

姉が家に帰ってきてから三度目の春。北海道美唄養護学校に入学し、訪問学級という形で小学校生活を送っていました。訪問学級とは、学校に行くことが難しい生徒のために先生が家

に来て授業をしてくれることです。

字を書くことはもちろん、英語や算数、体育など、ベッドでできるように工夫してくれて日変りで楽しい授業をしてくれました。その他には「世界に一つしかない本」を作ったり「七夕でお願い事」をしたり「家庭内運動会をしたりしました。家庭内運動会では、まず練習から始まります。種目は、玉入れ、ダンス、リレーなどその日はソファも机もベットも全部動かして家の中に小さなグラウンドを作りました。ルールは姉もできるように特別仕様となっていて、とにかくみんなが一杯笑った一日でした。こういう経験をしてから私達が出会った人達は、本当に明るくて暖かくて、家族を優しく包み込んでくれました。表でも裏でも家族を支え続けてくれ、いつもの生活に花が咲いたように、明るく過ごすことができました。

姉は七才の誕生日を迎えてすぐに、神様の元へ帰ってしまいました。姉と過ごした時間は、年をとっても忘れることのない、大切な一生の思い出です。

みなさんにとっての幸せの形とは何ですか。私達家族は、初めて会った人に、「大変ね～」とか「かわいそう」とかつぶやかれることもありましたが、でも、私達にとっては、他の子のように砂遊びをしたり、自由に走ったりできなくても、良い天気の中で、散歩をしたり、花を見たり私達にとっては十分すごいことで、幸せなことでした。

世間一般的に幸せと思われていることだけが、幸せの形ではないと私は思います。幸せの形はそれぞれあって、その人にしか、感じるということができないし、見つけることができないと思います。

これから私は、色々な経験をして、まだ見えない未来の幸せを、沢山見つけていきたいです。

優秀賞

(公益財団法人北海道青少年育成協会会長賞)



未来の舵取りを担う

鶴居村立鶴居中学校3年

ふじわら たくや
藤原 拓也

空を鮮やかな茜色に染めながら、雌阿寒岳にまっすぐ落ちていく美しい夕日。周りから聞こえる、小鳥や虫の鳴き声。目の前で「パチパチ」とはじける焚き火にくべた薪の音。

こんなに豊かな自然を持ち、素晴らしい体験ができる場所。僕は揺らぐ火を見ながら、

「これからずっとこの大好きな鶴居村に居続けたいな」と思いました。

ところが、中学三年生になり、卒業をする日が刻一刻と近づいています。村には高校がありません。つまり、中学校を卒業するという事は「大好きな地元を離れる」という事でもあるのです。

また社会人になったとき、僕もなるべく鶴居村に帰ってきたいなと思っていますが、不安なことも多く進路をどうすべきか悩んでいます。なぜかという、村では就職先が限られているなどで、地元に戻ってくる若者が少ないことが現状だからです。「未来の鶴居村はどうなってしまうのだろうか…?」というもやもやとした疑問が、どうしても僕の中でぬぐえずにありました。

そんなある日、僕の考えを変える二つの出来事がありました。一つ目は、ふるさと創生宿泊研修です。この取り組みは、毎年村内の中学二年生が参加し、鶴居村と同じ「美しい村連合」に加盟している赤井川村と交流したり、新千歳空港でPR活動をしたりするものです。他の市町村と鶴居村を比較する良い機会になり、その中で鶴居村の特色や魅力を再認識し、当たり前前だと思ったことが、実は村独自の取り組みだったことを知るなど、新たな観点から自分の村について考え直すきっかけとなりました。二つ目は、鶴居村中学生模擬議会です。議会で自分の

村の未来の姿について考えて、質問をすることで、移住支援や観光、環境問題など、様々な取り組みが、僕たちの将来に向けて行われていることが分かりました。

さらに、この二つの出来事で発見したことが、身近なところに潜んでいることに気づきました。僕の住んでいる地域では、以前までは、農家が点々とあるだけの人気のない景色だったのですが、最近廃校を利用したクラフトビール工場ができたことで、休日になると観光客が絶え間なく訪れるようになりました。

これらの経験などから、これからの未来を担う僕たちの世代が身の回りについて興味、関心を持ち、自分や、周りの未来について考えることの大切さを実感しました。

今は僕たちではない大人が舵取りをしてくれています。ですが、そう遠くない未来、その舵を僕たちの手で切らなくてはいけない機会が増えていくと思います。身近なところだと「選挙」などがありますが、もしかすると「自分には関係ない」だったり、「自分がどうこうしたところで解決できる問題ではない」という暗い考え方になってしまう人もいるのではないのでしょうか。ですが、先ほどの僕の体験例のように「身近なところから未来につながっている」と明るく考えてみる方が良いと思います。最近は、地球温暖化や、戦争激しい円安などいろんな問題が山積みになっています。そんな世の中だからこそ、身近な視点から興味や関心を持つことで、僕たち若い世代も未来の舵取りを担う一員になれるのではないかと思います。

ぼくが見たあの素晴らしい茜色の空が未来でも変わらずに見られたらいいなと思います。

奨励賞



ジェンダーの平等の実現に向け

札幌市立日章中学校3年

ほそかわ ゆうな
細川 優菜

皆さんは、「生徒会長」と聞くと、どのようなイメージを持ちますか。「頭がいい」とか、「力強い」とか、「リーダーシップがある」など、いろいろだと思います。では、皆さんがイメージする生徒会長は、男性ですか、女性ですか。

私は、日章中学校の第六十四期の生徒会長になりました。私が生徒会長に立候補した理由は、日章中学校の伝統を大切にしながら、新しい取り組みを行って、より良い学校にしたいと思ったからです。

女性の私が生徒会長と聞いて、生徒会長のイメージが男性だった方には、違和感だったかもしれません。では、なぜこんな問いかけをしたかというと、私は、日本のリーダーである総理大臣が歴代男性で、いまだに女性の首相が誕生していないことに疑問を持っていたからです。そこには、リーダーは男性がやるべきというイメージがあるのでしょうか。そこで私は、日本におけるジェンダーについて、考えてみることにしました。

男女の体には違いがあり、身体的な性別があります。一方、ジェンダーとは、生物学的な性とは違い、社会的、文化的に作られた性のことを指します。例えば、「女性は家庭で子どもの面倒を見るべき」、「男性は外で仕事をするべき」といった、「女らしさ」「男らしさ」という文化によって作られた意識のことです。

私も知らず知らずのうちに、家庭や学校の中、マスメディアなどあらゆる情報から影響を受け、無意識のうちにジェンダーを身につけています。「リーダーシップをとるのは男性」という「ジェンダー意識」は気付かないうちに「無意識の偏見」や思い込みとして、性別による差別や、決めつける行為につながるのではないのでしょうか。

「ジェンダーに基づく差別」を知るための一つに「ジェンダーギャップ指数」があります。それは、国ごとに経済、政治、教育、健康の四つの分野の男女平等の度合いを数値化し、指数を基に順位づけたものです。

今年の日本の「ジェンダーギャップ指数」は、

百四十六カ国中のうち百二十五位と過去最低で、G7で最下位というものでした。私はあまりの順位の低さに驚きを感じました。

日本の中で最も順位が低いのが、政治の分野です。衆議院議員の占める女性割合が十パーセント未満であること、閣僚が八、三パーセントであること、また女性の首相が誕生していないことが、評価の低い理由だそうです。私は、憤りを感じると同時に、日本の男女格差が激しいことを改めて感じました。私は、女性が政治に参加することが当たり前前の社会にならなければと思いました。

二〇一五年に国連で採択されたSDGsの十七ある目標の一つに「ジェンダー平等を実現しよう」というものがあります。私は、自分の中学校の環境ではどうか、考えてみました。本校の生徒会役員は十五人中十人が女性です。また、「標準服」は、今までは男子は学生服、女子はセーラー服でしたが、昨年度から、男女の区別なくブレザーにスカートまたはスラックスの着用となりました。さらに、「頭髮」についても、以前は髪の毛の長さなど細かく決められていましたが、今は男女の区別はなく、自分で髪型を考えて決めてよいことになりました。

中学校では、標準服や髪型など、ジェンダー平等に変わってきましたが、外見だけではなく常にジェンダー平等を意識することが大切だと思います。私は生徒会活動でも、その意識を浸透させていきたいと考えます。

では、世界中でジェンダー平等を実現していくには、どうしたらよいのでしょうか。SDGsが目指す大きなテーマは「誰一人取り残さない社会づくり」、平等で平和な二十一世紀の実現です。

私はまず、身近な対話が多く課題解決につながるのだと思います。「あなたと私」というように多様性をもった相手との交流と対話から「新しい発見」を重ねて課題を解決することで、「誰一人取り残さない社会づくり」ジェンダー平等が実現するのではないかと思います。

奨励賞



「かわいそう」は無責任

礼文町立香深中学校3年

みつえだ みう
光枝 美優

皆さんは、ひとり親家庭、いわゆる母子家庭、父子家庭にどのようなイメージを持っていますか？「かわいそう」だと思っていませんか？

私は二歳の頃から母子家庭で育ちました。小学生の時、友達と話しているときに父親の性格を聞かれたことがあり、とっさに「ああ、うち、お父さんいないんだよね。」と答えました。すると、友達に「そうだったんだ。なんかごめんね。」と言われました。他の友達にも「かわいそうだね。」と言われました。その言葉に私は傷つき、悔しさを感じました。この時初めて、私が他人に「かわいそう」と思われる存在だということに気づいたのです。そして、親が一人いない家庭で育ったというだけの子供が、「かわいそう」と思われることに疑問を持ちました。

ではなぜ、母子家庭に「かわいそう」というイメージがついてしまったのでしょうか。インターネットで調べると、いくつかの理由が分かりました。

一つ目は、父と母が二人揃っている家庭が一般的という考えが染みついているからです。二つ目は、父親がいないため、経済的に厳しいという決めつけがあるからです。

一つ目については、夫婦と未婚の子のみの世帯における、約十一パーセントがひとり親家庭であるということが分かっています。また、このグラフを見ると、年々夫婦と未婚の子のみの世帯の割合は減少傾向にあるのに対し、ひとり親と未婚の子のみの世帯の割合は増加傾向にあることが分かります。その上、今は様々な家庭のかたちも認められる、多様性の時代です。これらのことから、「かわいそう」といったイメージを持つのは、少し古いような考えだと感じませんか？

二つ目については、ひとり親家庭の児童のために、地方自治体から支給される児童扶養手当や、母子家庭向けに、家賃の一部を補助する住宅手当が出ています。これらの他にも医療費助

成や、ひとり親控除など、国や自治体からの手当が多く存在しています。これらの二つのことから、母子家庭だからといってみんなが不幸せであり、「かわいそう」だと思われる存在ではないことが言えます。裏を返すと、両親が揃っている家庭だからといって必ずしも幸せかという、そうではないですよ。

実際に、私以外に母子家庭で育った方の考えを知りたくて体験談を調べると、

「父親がいないこともあり、二人で頑張ってきたので、小さい時から友達関係のモヤモヤを気兼ねなく相談できました。」

「同じ女同士ということもあり、恋愛の話や他愛もない話などができ、母とは友達のような関係でした。」

など、私の感じてきたことと同じ考えを持つ人たちの話に出会うことができました。

私も、部活でキャプテンをしていて、後輩をどういう風に引っ張っていいか悩んでいたことがありました。その時、母が「みんなと一回話した方がいいんじゃない？美優が動かないと何も始まらないよ。」と、強く背中を押してくれました。私は、気兼ねなく相談できる家庭環境に助けられたのです。

マイナスなイメージを持たれがちなひとり親家庭には、ひとり親家庭のよさがあることが分かります。私も母子家庭で育ちましたが、自分の家庭が「かわいそう」だと思ったことは一度もありません。それは、私にたくさんの愛情を注いでくれた母親や、母親のことを理解してくれた周りの方々のおかげでもあります。ひとり親家庭に必要なのは、「かわいそう」というイメージを持つことではなく、周りの人が何か自分にできることはないか考え、行動することだと私は思います。私は、ひとり親家庭に対する「かわいそう」という意見が改善され、どんな家庭でも認めてくれる社会に変えていきたいです。

「かわいそう」に責任をもって。

奨励賞



一步を踏み出して

俱知安町立俱知安中学校3年

かいしま ゆうは
貝島 優羽

「自分が好き」そう自信を持って言える人は、どれほどいるのでしょうか？私は、自分に自信を持つべきだと思います。なぜかという、「自信を持つ」ということには「人としての魅力が増す」という素敵な効果があると思ったからです。

中学一年生のとき、私は突然「消えたい」と感じました。はっきりとした理由は、特にありませんでした。ただ、「辛い、人に会いたくない」と思い、次第に外に出る気力もなくなってしまいました。当時の私は、何よりも不安を感じ、「こんな自分にはなんの価値もない、こんな私を見てみんなはどう思っているんだろう……。」そんなことばかり気にしていました。時間だけが過ぎ、このままじゃ駄目だ、そう思っているうち気づいたら中学二年生になっていました。

なにか自分を変えるきっかけがないかと探しているとき、目の前には新しい教室、新しいクラスメイトがいました。「怖い」ただその感情だけが私の頭をよぎりました。誰になにを話しかければいいのかもわからず、ただ一人ぼーっと机を眺めているだけでした。そんなとき、「同じクラスなんだね！これからよろしくね。」という声が聞こえました。新しいクラスメイトが、話しかけてくれたのです。何気ない一言でしたが、わたしは久しぶりの家族以外との会話に胸が躍りました。

しかし、一つ疑問が浮かび上がりました。「なんでわたしなんか話しかけてくれたんだろう……。」「あっ！」私はその時初めて気づいたのです。みんな心配してくれていたんだと。こんな自分がある意味なんてない、そう思っていたのは自分だけだったのです。その日は久しぶりに教室でしっかり授業を受けて帰ろうと思えました。外はまだ雪が少し残っていて、肌寒い時期でした。久しぶりの学校に、何から手を付けたらいいのかわからず困惑することも多々ありました。それでも周りの子が手を貸してくれたり、話しかけてく

れたりしたおかげでなんとか一日を終えることができました。その日から、私の心情に大きな変化が起きました。それは、「授業が楽しい」と感じるようになり、自主的に「勉強頑張ろう」と思えるようになったことです。

今、一年生の頃の私はどこにいったんだろうと思うほど楽しく学校へ通えています。テストの点数もはじめのころと比べ、徐々に高くなってきて、とにかく嬉しかったです。そこから勉強のモチベーションが驚くほどに上がり、本当の私は何でもできる・まだまだ伸びるんだと今までに感じたことのないような「自信」が湧いてきました。このような経験をしたことがあるのは私だけではないと思います。年齢・性別関係なしに人は誰しも変われるチャンスがあるということも多くの人に知って欲しいです。大事なのは一歩が後にあなたの希望になると思います。

もし、「そんな勇気が自分にはない」という人がいるのなら、小さなことでもいいのでなにか行動に移してみてください。考えてみることもいいと思うのですが、行動に移さない限り何も変わりません。「逃げるばかりじゃだめ」この言葉は本物です。もちろん、自信をつけるということは簡単なことではないと思います。だからこそ、人一倍苦勞と努力をして自分のことを「好き」と言えるようになれば、それは自分にとって最大の魅力になります。

最後に、私の生活を救ってくれた言葉を紹介します。それは、「自信がないから自身をつけるために頑張る」です。この言葉は、どんなにちっぽけなことでもそれは自分自身の能力で、その能力がいつか自信として花開くことを教えてくれた言葉です。きっとこれからも多くの人がこの言葉のように自信をつけられるはずで、私達には無限の可能性が 있습니다。世界中の人々の可能性を信じて、わたしも成長していきます。



私らしい生き方

浦幌町立浦幌中学校3年

やまもと ゆちか
山本 結千花

(なぜ周りと同じでなければいけないのか)
日常生活の中で、あるいは学校の中でもそう思うことがあります。周りとは違う考え方というだけで否定されることもあります。

はたして、たった一つの考えだけで一番良い答えに辿り着くことができるのでしょうか。私は難しいと感じます。人それぞれに個性があり、価値観も違う。だからこそ「様々な出会い」「新たな発見」を大切にするとともに、他の人には、ありのままの私という存在を伝えていきたいのです。

なぜ私がそこまで多くの意見が大切だということにこだわるのか、それは私の個性に原因があると考えています。

私は、小さい頃から「周りと同じ」ということを無意識に避け、一般的に女子が好むとされているピンクではなく、水色や青にひかれ、今でも身の回りの多くは青色です。そんな私は、当然のことながら周りの人たちに変わった子供だと思われることも多くありました。その時に私は思ったのです。なぜ女の子だから、男の子だからという理由だけで枠にはめられなければならないのか、なぜ女の子らしく振る舞わなければおかしいのか、今ではこのような考えの改善に世界中が取り込んでいますが、意識的に「多様さ」を受け入れることは、その多様を「特別」だと認識し、その人の「普通」を否定してしまっているのではないかと考えています。

それでも私らしさを忘れないでいられるのは、自分らしくいるところが私の長所だと言ってくれる人がいたり、なりよりも私が、私の「好き」を否定しなくなかったからです。

様々な価値観があるなかで自分を変えるのも、そのままにいるのも全て自分なのです。

しかし、この「私らしさ」を長所ではなく短

所だと感じることももちろんあります。例えば意見が異なったときに譲れずぶつかりあったり、我慢しなければならないときもあったりします。このような場面でも、自分の個性をマイナスにとらえるのではなく、自身を一步成長させる出発点としてプラスに考えることで短所も長所として捉えることができると思うのです。この考え方が、自分にとっても周りにとっても良い影響を与えるかはわかりませんが、自ら考えて、行動することに意味があると私は強く考えています。

さらに思い浮かぶ事例は利き手のことです。

私は生まれつき左利きです。多くの人が右利きであれば、社会の中でも右利きの人が便利なようにできています。ですから、左利きの私にとっては不自由を感じることも多くあります。例えば、習字の授業の際に、左で書くときと書き出しが上手くいかなく、とはいえ無理に右で書くと手が震えてしまい綺麗な形にならないのです。日常生活でも些細なことではありますが不自由を感じる場面が多くあります。だからといって右利きに変えるつもりはありません。それも個性の一つであり、一つの私らしさなのです。

この経験から私は、自分だけしかもっていない「個性」を自分の「成長」へとつなげることができていると感じます。ですからみなさんも、周りとは違う自分の考えを思い切って出し、行動してみてください。否定する人がいたとしても、受け入れてもらうにはまず「自分という存在」を知ってもらわなければ次には進めないのです。自ら考えて行動するその姿が、どこかであなたの「自信」となるでしょう。

私はこれからも、ありのままの自分で生きていきます。

私は私らしく。



多様性の時代

長万部町立長万部中学校3年

しのだ
篠田
すずほ
涼帆

私には苦手な言葉があります。「普通」です。

「普通はそんなことしないよ。」

「普通では考えられないな。」

私もそのような言葉を言われることがよくあります。そのたびに、「普通とは何なのか？何をもって普通といえるのか？」とよく考えます。

なぜ私が普通という言葉が苦手なのか、よくよく考えると、三つの理由が考えられました。

一つ目は、私自身の中で、普通から外れる恐怖感と、自分も普通であるという安心感が生まれることです。

「普通できるよね？」

「なんでできないの？」

と言われると、私は普通ではない、と否定されているような気持ちになります。そして、それは、裏を返せば、普通であることに安心しているということなのです。「普通にしぼられていて、本当に自分のやりたいことをできないからつまらない。」と私自身思いますが、やはり、周りの目が怖くて、普通なるものにあてはめようと必死になる自分もいます。「普通」というものは、人を否定したり、安心させたりできる、難しい言葉なのです。

二つ目は、「普通はありえない」などという言葉が、言った人の価値観を他人に押しつけてしまうからです。その人の思っている普通を相手に押しつけて、すべての人が同じ価値観になれば、すべてがその人の思い通りに行くかもしれませんが、それは絶対にいけないことだと私は思います。まだ世界のすべてを知ってはいないのに、「普通はそうする」だの「普通はそんなことしない」だのと語ってはいけないのではないかと思います。

三つ目は、「普通はできるよね。できない理由が分からない。」「こんな普通でしょ。」などと言うことで、完璧主義になってしまうことです。上を目指すことは全く悪いことではありませんが、人それぞれ普通の価値は違うのです。その人にとって少しハードルの高いことをできない人に要求して「なんでこんなこともできないの？」と言うのは違うと思います。そのような能力の差があり、考え方の違

いが全ての人にある、ということが普通であり、あたりまえなのです。

ただ、「普通」と同じくらい「多様性」も難しい言葉だと私は考えます。多様性を認める時代である現在、はきちがえたらいけないと思うことがたくさんあります。

現実の生活の中で、何かに挑戦する場面に弱い気持ちである「諦めの気持ち」や「甘えの気持ち」を出したり、認めたりすることは決して多様性ではないと考えますし、困難や少しの壁で「私はこれが苦手です。できません。しかしこれも私の個性なので仕方ないです。」と言うのも、多様性を認めているとは言いません。

「教室で鬼ごっこするのも多様性」、「宿題やらないのも多様性」ではないのです。

また、何事も他人事と考える放任と、多様性は違うと考えます。私は政治家がニュースやSNSで批判されているのを見て、「そんなに怒らなくてもいいじゃないか。」と思います。しかし、それは今の私にとっては重要ではないこと、他人事であるだけです。

「仕方ない」と諦めるのは違う、「私には関係ないし」と他人事になるのも違う、「許してちょうだい」と甘えるのも違う、となる時、多様性との境目ってどこだ？となります。

私が考えるに、多様性とは考え方や能力が自分とは違っていても、「おもしろい」と認められることだと思います。ちがう人のちがう考え方や、できること、できないことも「おもしろい」と認めることができれば、社会がもっと豊かになるのでは、と思います。

結論として、「人間には性別や見た目だけでなく、考え方や能力にも多様性があり、それを普通という一言でまとめたりしてはいけない。多様性とは、ちがうところもおもしろいと認めることができることではないか。」というのが私の主張です。

普通について見つめ直して、多様性を認めてこそ、生きやすい『多様性の時代』になると思いませんか？

奨励賞



別海町立上春別中学校2年

雑草

かわもと

河本 さくら

「雑草に名前はないのかな。」

おばあちゃんと雑草抜きをしていた今年の夏。私はふっとそんな疑問を抱きました。

私達人間はもちろんのこと、動物や植物も、ある程度、名前で呼ばれています。それなのに、なぜ雑草は名前で呼ばれないのでしょうか。

というのも実は、「雑草」という名前の植物はなんと存在しないのです。「じゃあ私達の呼んでいる雑草って何？」と疑問に思いませんか。

そこで早速検索してみると、「雑草」とは、「栽培しないのに生える色々な草」という意味が出てきました。「色々な草。」例えば、皆さんも、一度は見たことがあるであろう「シロツメクサ」という雑草の一種。空き地や田畑などによく生える雑草で、小さく白い花が沢山集まり、一つの花に見えるそうです。また、皆さんにとって聞き馴染みのある、あの細長い葉と犬の尾のような穂がついている「ネコジャラシ」という雑草。これは、実は「エノコログサ」という名前があります。空き地や田畑など、あらゆる場所で繁殖するそうです。

このように、そこら辺に生えている雑草は一つ一つ正式な名前があるのです。では、なぜ「雑草」とひとくくりになどめられているのか。それは、特徴は違えど、雑草と呼ばれる草たちは、光や水、養分の奪い合いに弱いことから、豊かな森には生えず、道端や畑のような地味な場所を選び、生えるからだそうです。私はそれを知り、雑草たちが他の植物にも負け、人間にも邪魔だと言われて抜かれていると思うと、なんだか切なく感じてしまいました。

しかし、その一方で私はあることが頭に浮かびました。それは、「雑草を一つ一つ名前で呼んだり、それぞれの特徴を理解することで、一つの植物として見る事が出来るのではないか。」と。もちろん、雑草は日当たりを悪くしたり、土の養分や水分を奪うなど、他の植物の成長の妨げになってしまうのも事実です。けれども一方で、雑草は、柔らかな土へと改良してくれる働きがあったり、水はけを良くしてくれるなどの良さもあり

ます。今まで私は、「雑草」というだけで、悪いイメージしか持っていませんでしたが、今回、調べる過程で良い面もあると知って、雑草に対するイメージが大きく変わりました。

そして私はここから「あること」に気付いたのです。それは、「私たち人間と雑草は同じではないか」と。

例えば、皆さん、女性、男性というだけでイメージを決めつけてはいませんか。調べてみると、「女性は感情的でめんどくさい」、「男性は空気を読めない」など、固定されたイメージがあるそうです。ですが、女性も男性も、もちろん一人ひとり名前があり、それぞれの個性があります。また、誰にだって良い所もあれば、悪いところもあります。その人に最初は悪いイメージを持っていたけれど、実は良い人だった、なんてこともよくあります。

私は、今、「雑草」のように、周りの勝手なイメージに縛られて、自分らしさを出すことのできない人に伝えたいです。あなたにも、あなたにしかない特別な名前があるということ。あなただけの「個性」があるということ。

皆さんはどうですか。一人ひとり違うのに、勝手なイメージでその人の個性を奪ってしまっていないですか。

私はこれから、勝手なイメージで人を縛らず、その人の「良さ」を見つけてあげたい。その「良さ」を認めてあげ、その人の個性を伸ばしてあげたいと思っています。そうすれば、自分自身の視野が広がるだけではなく、その人も、自分の新たな一面。「素敵な個性」に気づくことができるかもしれないから。そして私だけではなく、人間一人ひとりが縛られたイメージから脱却し、色々な個性を認めあうことができるようになれば皆自分らしく生きることができるようになると私は思うから。

雑草にもそれぞれの特徴があるように、私たち人間にもそれぞれの「個性」があります。誰もが持っているその個性。そんな個性をお互いに認めあえる世の中にしてみませんか。



言葉の力とは

洞爺湖町立虻田中学校3年

しらい ののか
白井 遥ノ椀

みなさんは言葉には、どんな力があると思いますか？私は放った言葉一つで簡単に人を操れる力があると感じます。例えば、「うざい」「きもい」「死ぬ」などの言葉で、人の心は刃物で刺されたかのように沢山傷つきます。反対に、「ありがとう」「大好き」「頑張ってる」という言葉では、心はポカポカするような温かい気持ちになります。このように、言葉一つで心は動かされてしまいます。

最近では、スマホを活用する人達が多く見られます。そのスマホには簡単に人を傷つけてしまう力があると思います。代表的な例を挙げるとしたら、ずばりSNSです。皆さんは、誹謗中傷という言葉を知っていますか？誹謗中傷とは、悪口や根拠のない嘘等を書いて、他人を傷つけたりする行為です。特に近年では、SNS上での誹謗中傷の影響で自ら命を絶ってしまったり、悩んでいる人が沢山おり、社会問題にもなっているくらいです。SNSでは、動画などに対して自分の感想を書き込める「コメント」というものがあります。その機能のおかげで、祝福などのいい言葉を早い段階で書き込むことができるメリットがあります。その反面、長期間にわたり人が傷ついてしまう言葉を書き込んでしまうデメリットもあります。両方のコメントは、消さない限りずっと残ります。消したとしても投稿者の心の中には、大きな傷が残ります。なので言葉には人を簡単に傷つけてしまう力があると思っています。実際に、総務省が運営委託する「違法・有害情報相談センター」に寄せられた相談件数は二〇二二年度は五七四五件と八年連続で五〇〇〇件を超えました。では、なぜこのように誹謗中傷をしてしまうのでしょうか？それは、二〇二〇年八月二十六日にビッグロブが行った「ウィズコロナ時代のストレスに関する調査」で「SNS

で他者の誹謗中傷をした理由」という記事で分かりました。グラフを見て最も多かったのは「対象が嫌いでも我慢ならないから」という理由でした。また、二番目は「日常のストレスの出口」。このように見ていくと、それぞれの欲求不満をコメントにぶつけていることにすぎないのです。なので、コメント打つ前に、まずは相手が傷つかないかどうかを配慮する必要があると思います。

私は、バレーボール部に所属し、二年生の時に地区選抜に選考していただきました。その時に、選抜の先生は、こう言いました。「一つ、これから関わる全ての人を大切にしてください。二つ、限りあるこの時間を大切にしてください。三つ、これから行く場所や使うものを大切に扱ってください。」この言葉は、私がバレーボールを行っていくうえで、とても大切にしたい言葉です。実際に、一つ目のこれから関わる全ての人を大切にしてくださいという言葉は今に繋がりました。正直私は、あまり人と話すのが苦手です。なので、選抜の時は全然大人とお話できませんでした。でも今は、話せます。それは、やはり温かい言葉を交わし、心が繋がったからだと思います。なにかしてもらったら、「ありがとう」と言い元気付けたい時は「一緒に頑張ろう」と励ましたり。私も言ってもらった立場になったとき、とても嬉しかったです。そしてその言葉は、私が頑張る一つの励みになりました。

私達はこれから、高校、大学、就職などといった場面で多くの人と出会います。その時に、大切にしたいのは「言葉」です。言葉をうまく使わないと、人を傷つけてしまう一つの武器になってしまうことを忘れず、発言する時は相手に不快な思いをさせないかと考えながら使っていきたいと思っています。



男女差別

江差町立江差北中学校2年

いとはた
系畑

しずく
雫

男は仕事。女は家事。男はズボン。女はスカート。男は青。女はピンク。

このように、男は〇〇、女は〇〇と決めつけることをジェンダーバイアスと言います。

みなさんは、ジェンダーバイアスについてどう思いますか？SDGsでは「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が掲げられており、すべての人が、この目標達成のために行動する事が求められています。

最近、ジェンダーバイアスについてニュースでもときどき触れたり、ジェンダーバイアスをなくそうと、前向きな活動がたくさん行われています。日本は特に、ジェンダーバイアス、男女差別が激しい国です。女性が自分のことを「おれ」と言うのを気持ち悪がったり、インターネット上で、自分の性について話すと、心無いコメントをされたり、ジェンダーバイアスは、とても大きな問題だと、私は思います。

みなさんは、女性が「おれ」と言ったら、男性がスカートをはいていたりしたら、違和感を覚えますか？私は実際に、男性がスカートをはいているのを見たことがあります。私はその男性のことをステキだなと思って見ていましたが、周りを見ると、げんきな顔でその男性の方を見て、何かを話している人がいることに気づきました。その人達は、その男性のことを、「何あの格好」と言っていたのです。それを見て、私は悲しくなりました。なぜ、目の前に本人がいるのにそんなことが言えるのでしょうか。誰もが自分の好きな格好をして、好きな一人称を使えばいいと思います。私は、自分の生まれた性に従って生きろと言う人を見ると、悲しく、自分の性にとられる人生なんてつまらないな。と思ってしまいます。かと言って、男女差別について、とってもいい解決策があるかといったら、今の私にはとってもすばらしい案が思いつくかぶ訳でもありません。ですが、少し思い浮かぶことがあるとしたら、人を大きなまと

まりで見ないことだと思います。人は、一人一人考え方、思い、感じ方が違います。その違いを互いに認めることが、差別をなくすことにつながるのではないのでしょうか？ですが、そんな事を分かっている、行動に移せないのが現状です。

本当に、男女差別は難しい問題だと思います。

ここまで考えてみると、男女差別がなくなるのは、遠い未来なんじゃないかと思ってしまいます。

昔の日本は男女差別がとてもひどかったそうです。ずっと当たり前だった男女差別を今、なくすことはとても難しいことだと思います。きっと、自分の時代は男女差別が当たり前だったという人もたくさんいると思います。その当たり前をなくすのは、とっても時間がかかるし、難しいことだと思います。じゃあ、私たちはいったいどうすればいいのかもう一度考えてみました。私は、これから生まれてくる人達に、間違った当たり前を教えないようにすることが大事だと思います。確かに、男女差別は自分の時代では当たり前だったのかもしれませんが、ですが今はそうではありません。皆、今を生きているんです。時代にそって自分の当たり前を見つめ直すということは、とっても難しいことだと思いますが、必要なことだと私は思います。

ですから、私は、男女差別を解決するには、時代と共に皆の当たり前を、少しずつアップデートしていくことが大切だと思います。

無理やり多様性を押しつけるよりも、それが受け入れられない人がいるということも理解しながら、これからの時代を生きる新しい子供達に、多様性が当たり前だと伝えることが、男女差別を少しでも解決するきっかけになるのではないかと私は思います。

次の時代を生きる子供達が、過ごしやすい社会になるように、今、私達で全力でがんばりましょう。

奨励賞



遠軽町立南中学校3年

挑 戦

たかばやし

高林

めぐむ

恵

皆さんは、やりたいことを諦めてしまったことはありますか。私は今までの生活でやりたかったことに挑戦せず終わったことが何度もあります。たとえば、私は小学生のころ学級委員長になりたいと思っていました。ですが、自分に務まるのか不安で、結局挑戦せずに終わりました。ほかに、まちがえたら恥ずかしいからといって授業中に発言できないということが何度もありました。このような「やりたくてもできない」という経験は、皆さんもあるのではないのでしょうか。

しかし、私が小学生のとき、もじもじしてばかりの私とは正反対な、とても積極的な子がいました。その子は、周囲の目を気にせずやりたいことに挑戦でき、たとえ他人に文句を言われても、途中で諦めず、最後までやりきることができるといすごい人でした。私は、なんでも挑戦できるその子が苦手でした。なぜなら、小さなことで悩んでしまい、何もできずに終わってしまう私とは違い、周りを気にせずにどんどん進んでいくからです。小学生のころの私は、なぜその子がそんなに堂々としているのか、とても不思議でした。

中学生になり、環境が大きく変わりました。仲の良かった友だちと離れてしまい、私はますます人前に出ることが苦手になりました。そんなとき、小学生のころ苦手だったその子と偶然同じクラスになりました。

あるとき、たまたま話す機会があり、その子と仲良くなりました。友達として身近なところにいると、その子がどんな思いでたくさんすることに挑戦しているのかがわかってきました。その子は、何も考えずに手を挙げているわけではなく、私と同じように不安も恥ずかしさもあるけれど、自分のやりたいことに正々堂々と立ち向かっていたのです。さらに、ほかの人と比べて、前に出る機会も多かったのも、周りに文句

を言われることも少なくありませんでした。しかし、それでも諦めず挑戦するその子の姿を見て、私はどうして自分は挑戦することすらしていないのに、努力しているその子のことを苦手だなんて思ってしまったんだろう……と思いました。

それから私は、その子に憧れて、自分もこんな風にいろいろなことに挑戦したいと思うようになりました。最初は、クラスメイトに自分から話しかけるようにしたり、班活動に積極的に取り組んだりしました。いろいろなことに挑戦したことで、少しずつ自信がついてきて、今の自分なら、やりたかったことに挑戦できるはずだと思い、思いきって部活動の部長をやってみることにしました。立候補してみても、「やっぱり自分にはできないかも……」と思いました。いざやってみると、緊張するのは最初だけで、とてもやりがいのある仕事だということに気づきました。今回の私のように、やってみないと気がつかないことも、たくさんあります。挑戦してみないと分からないけれど、挑戦するからこそ、今までとは違う楽しみも増えるし、やれることも多くなります。手を挙げるのが恥ずかしいからと言って、チャンスを逃がすより、少しだけ勇気を出して、挑戦してみるほうが、ずっと人生を楽しめる気がしませんか。一度挑戦して、慣れてしまえば、自信がついて、新たな可能性も広がります。たとえ、失敗しても、失敗した分だけ、その経験が将来の役に立ちます。挑戦するということが、デメリットは一つもありません。なので、私はこれからも後悔のないよう、挑戦し続けます。

皆さんも、自分自身を成長させるため、そして後悔のない人生にするために、少しだけ勇気を出して挑戦してみてもはどうでしょうか。きっと、世界が広がって、充実した毎日を過ごせるようになります。

奨励賞



青春のありがた

様似町立様似中学校3年

ひらた ことね
平田 琴音

私は今、悩んでいます。恋に悩んでいる？いいえ違います。寧ろ悩みたいくらいなのです。私は人生で一度も付き合ったことがありません。中学生で付き合うなど早すぎる、と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私の場合は恋をしたことすら無いのです。決して恋をした過去を公の場で明かしたくないというわけではなく、本当のことです。

皆さんは「青春」と聞くとどんなことを思い浮かべますか。私は、恋をして、友人とたくさん遊んで、全てに全力で…という生活をイメージします。しかし、私にはあまりあてはまらないように感じるので。「青春を謳歌できるのは今だけなのに…」と最近では焦りまで感じるようになりました。

こうして「青春」のことについて悩み、考えていくうちに疑問が生まれました。それは、「みんなはどうやって青春を楽しんで生活しているのだろう」ということです。

そこで私は、学校などで、友人がどのように日常という名の青春を過ごしているのか観察してみました。みんなをみると、恋に悩む人がいたり、友達と楽しい時間を過ごしていたり、行事などのときにはクラス全体でお互いを高め合っている、という私の思い浮かべたような生活をしていました。ですが、私のように意図的に青春を楽しもうとしているというより、そんなことを考えずに自然と楽しんでいるように見えました。そんな姿を見ると、「青春」をしようと努力することはナンセンスなのではないのかと思い始めました。思い返してみると、私も日々の中で知らず知らずのうちに楽しんでいる時がありました。例えば部活。私は吹奏楽部に入っているのですが、コンクールなど本番に向けて練習しているときは汗を流しながら本気になって、メンバー全員でアドバイスしあっていました。このような経験は今では当たり前ですが、大人になってからはあまり味わえない、今しかできないことなのではないでしょうか。普段の学校での生活も、友達と冗談を言い合って笑ったり、勉強を教えてもらったりと、些細なことですが、後から考えてみると幸せで楽しめていた事はたくさんありました。

小さい頃は嫌なことがあってもあまり気にせず、人間関係など難しいことは考えずに自由に過ごしていました。今となっては羨ましい生き方ですが、当時はそんなことは微塵も思っていませんでした。実は今もその時と同じで、自分ではあまり代わり映えない「普通」の日々を「普通」に過ごしてきたと思っていましたが、実はそんなことは無いのかもしれない。今の日常も、捉え方によってはもしかすると「青春」と言えるのではないのでしょうか。

前に友達と「青春」について話したことがありました。私にはその友達が青春の日々を楽しんでいるように見えていました。ですがその友達は「自分はあまり青春ができていない」と言ったのです。私は当然驚きました。そして、自分自身で今の自分のことを全て理解することは難しいことなのだと気づいたのです。年を重ねたりして、客観的になってから初めてわかることもあるのかもしれませんが、客観的になってからわかるのは「青春」だけでなく、例えば一人暮らしをして初めて母の存在が如何に偉大だったかがわかったり、テスト週間になって以前までのテレビを見ることのできた生活がどれほど幸福だったのか身にしみてわかったり…というよくあるようなことにもあてはまると思います。当たり前になっている幸せは、失ってから気付くことが多いのかもしれませんが、しかし、失ってからでは遅いのです。だからこそ、今この瞬間を大事にして、捉え方を変えて生きていくことがとても大切なことなのだと思います。「そんなことは当たり前だ。」と思う方もいると思います。ですが、現代の人たちはその当たり前が上手にできていないような気がします。嫌なことに目が行きがちな生活ですが、楽しかった、幸せだったこともあったことを忘れないようにすることを心がけていきたいです。

私は青春についてずっと悩んでいましたが、もしかするとその事自体が青春なのかもしれないと、今では思っています。「今しかできないこと」、それがきっと青春。そうやって日々を少しだけでもいい方向に考えていくことができれば、もっと楽しく明るい人生を送ることができるのではないのでしょうか。



油断から広がる危険性

遠別町立遠別中学校3年

たむら りりか
田村 里々香

毎日欠かさず、当たり前のようにSNSを利用している現代。皆さんもスマートフォン、いわゆるスマホなどを通じてSNSに関わっている人がほとんどではないでしょうか。今までに何度もSNSの使い方が問題視されてきました。ですが、当たり前のように「SNSは危険なもの」と言われ、慣れというものができ、油断しすぎていませんか。そんな中、私は実際にSNSでトラブルに巻き込まれそうになり、とても怖い思いをしました。だからこそ、子供や大人など関係なく、もう一度改めてSNSへの関わり方を見つめ直すべきではないかと私は考えました。

私も小学生の頃にSNSの恐ろしさについて何度か学習しました。ですが、スマホというものを持っていなかった私は、「どうせ私はそんな危険なことにはしないし、されないから大丈夫」などと先のことも考えずに油断していました。そして中学生になり、私はスマホを持ちました。ある日の夜、私は何気なくスマホを使っていると全く知らない人からSNSを通じて急に「どこら辺に住んでいるの?」「君が通っている中学校の制服やジャージはどんな色?」など、明らかに個人情報を引き出そうとする悪質な内容のメッセージが送られてきました。このとき私は、「え、何これ怖いんだけど」「個人情報を漏らしてしまうとどうなるか分からない」という恐怖ですぐにその人のことをブロックし、関係を断ち切りました。この日の夜は、このことがずっと頭に残り眠れないほどでした。

私は今回のようにすぐに相手と関係を断ち切ることができましたが、もう既に自分のことを相手に知られてしまっていたり、相手から脅迫されたりなどして関係を断ち切れなかったということから個人情報の流出によるストーカー被害や詐欺などの事件になることが多いそうです。このことから私はどのような対策を取ることでこのようなことから逃れられるのか考えてみました。

まず一番大切なのは最初から知人以外を受け入れ

ないこと、知らない人とはすぐに関係を断ち切ったり、絶対に個人情報を漏らさないことだと思います。しかし、このようにやり方は簡単でもできている人が少ないため、SNSによる被害を減らすことが難しいのです。ですが、また被害者を出してはいけません。一人一人が少しずつ意識や行動を変えていくことから始めるべきだと思います。

ところで、今では私とは違い、小学生からスマホを持っている人が多いそうです。自分の子だけスマホを持っていないといじめにつながってしまうという理由で持たせる親が多いそうですが、本当に小さなうちからスマホを与えてしまっても良いのでしょうか。確かに、周りの子と違うと差がついてしまいがちですが、もし私が小学生の頃にスマホを持ち、SNSを利用したなら、SNSの危険性を認識せず、簡単に個人情報を漏らしてしまうと思います。私は、子供がSNSの欠点や危険性をもっともっと理解出来るようになるまでスマホを与えるのはやめておく、もしくはSNSの利用について厳しいルールを定めるなどの工夫をした方が良いと思います。

SNSでトラブルを小学生、中学生が起こしてしまったら誰が責任を取るのでしょうか。私たちは責任をとれる年齢ではないため、結局は保護者が全て責任をとります。私はルールが守れず、責任がとれないのであるならば、中学生の私たちも最初からSNSを使わないでおくべきだと思います。

これからもSNSは更に進化していくと思われませんが、それとともに、人間はSNSを利用しすぎてしまう、頼りすぎてしまうということも考えられます。ですが、私は、学校で行われている体育大会や学校祭などの行事でたくさんの人と関わることができたとき、SNSの中にはない、人を信頼し、絆を深めるということを身につけることができました。そんな中でも皆さんは、現実世界で身につけられるものとSNSによって身につけられるもの、どちらの方が大切だと感じますか?



北海道教育大学附属旭川中学校3年

性別をこえた平等へ

おおくし ゆか
大串 雪花

ある日の学校でのことでした。1人の先生が男子生徒に言いました。

「おい、何でヘアピンなんてつけているんだ。みっともない。自覚はあるのか。」

私の学校には校則があります。ヘアピンは目立たない色、という指定があります。言われた男子生徒は、校則に違反していない黒いヘアピンで前髪をとめていました。

「えっ。」その男子生徒は驚いて目を大きく開き、あわててヘアピンをはずしました。私はそれを見て、「あれ。校則に違反していないのに何で注意されたの。」と思いました。

多くの女子が黒いヘアピンをつけていますが、注意はしません。その人が男子、というだけで非難をしたのです。私の中に納得のいかない気持ちが膨らんでいきました。

最近、ジェンダーレスという言葉をよく聞きます。テレビや新聞などのマスメディアでもよく取り上げられ、ジェンダー平等を達成することは、とても大切なことだ、と授業で習います。先生が矛盾したことを言っていると感じ、「なぜ彼がヘアピンをつけたらダメなのですか。」と、尋ねようと何度も思いましたが、結局、言うことはできませんでした。

次の休み時間に、私は複数の友人とその話をしました。私が疑問に思ったことを伝えました。同調してくれた人もいましたが、多くは「でも、男子がヘアピンは変だよな。」とか「そこまで深刻に考えなくてもいいんじゃないの。」という反応でした。

大人はこの出来事をどう受け止めるのか、気になったので、母に学校での出来事を聞いてもらい、自分の思っていることを、相談してみることにしました。すると、母は「その先生は悪気があったわけじゃなくて、男子トイレは青、女子トイレは赤、みたくないずっと備わってきた感覚で言ってしまったのではないかな。」と話したのです。

その言葉を聞いて、私は腑に落ちました。発言をした先生は、今までずっと培われてきた感覚で、男子がヘアピンをつけることに、違和感を覚えて指摘してしまったのではないかと思います。

私は小さな頃からとても活発で、人見知りを全く

しない子供でした。女の子は、母親の後ろに隠れて恥ずかしがるイメージが大半なのか、「女の子なのに、とても元気だね。」とよく言われました。幼いころからずっと言われてきた言葉なので、今まで違和感はありませんでした。しかし、私は、学校での出来事から、「女の子らしい」「男の子らしい」を疑問に思うようになりました。そして、無意識のうちに使ってしまうそのような言葉で、私が誰かを傷つけてしまわないように、意識を改める事にしました。

私のこの思いを自分だけで完結させてはいけない。そんな強い思いが生まれ、私はジェンダー平等について思ったことを素直に友人に伝えてみることにしました。また、男女の枠に、はめて発言をした友人に、「それは、どうなのかな。別の視点から考えてみよう。」と一緒に意識を変えていけるように行動していきました。最初は戸惑い、「そこまで考えなくても……」と言っていた友人達でしたが、徐々に、「考えてもみなかった。確かにそうかもしれない。気をつけて生活してみるよ。」と前向きに考え、一緒に行動をする人が増えていきました。実際に、自分から積極的に行動することによって、周りの意識を変えていける、と私は実感しました。

「ピンクが好きです。」

「将来はサッカー選手になりたい。」

「好きな遊びはおままごとです。」

みなさんは、これらのセリフからどちらの性別の人を思い浮かべましたか。

日常に定着している、性別に対するイメージを変えていくのは時間がかかるでしょう。

しかし、そのイメージだけで発言をすると、つらい思いをしたり、嫌な気持ちになる人がいるかもしれません。

このようなことを防ぐためにも、性別の違いに囚われず、その人自身を尊重する言動を常に意識していきます。

ジェンダー平等とはまさに、性別をこえて1人1人の「個性」を大切にする事なのではないでしょうか。私が、積極的に行動をおこし、周りの人たちと一緒に意識を変えていきます。そして、共にジェンダー平等を達成しましょう。

一隅を照らす

宮城県 栗原市立栗原南中学校3年

ケイバージーバ

「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで三十五年もの間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学四年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようになりたい……。」

「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、四年生からは、日本で生活しています。

六年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつ

も応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができてることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥ話、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

人間は一人では生きていけません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で(پو کونج روښانه کړئ)。まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表してもらう機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的としています。

(国際児童年の昭和54年から毎年開催)

大会のあらまし

■総合振興局・振興局地区大会 地区代表者の選出

■全道大会 地区代表者16名の参加
最優秀賞1名(北海道・東北ブロック代表選考に推薦)
優秀賞3名、奨励賞12名を決定・表彰
(最優秀賞・優秀賞の4名には「北海道コンサドーレ札幌賞」を贈呈)

■全国大会出場者の選出

全国5つのブロック(北海道・東北/関東・甲信越/中部・近畿/中国・四国/九州)毎に、都道府県代表者の主張原稿及び動画を審査し、各ブロックの代表者が選出される。

■全国大会

令和6年11月24日(日)東京都(国立オリンピック記念青少年総合センター)において開催。
各ブロックの代表者12名が参加(内閣総理大臣賞ほか各賞決定)。

審査員

■審査員長 (敬称略)

鏡 武 志 北海道中学校長会情報部副部長/苫小牧市立和光中学校長

■審査員(50音順)

佐 藤 宏 光 公益財団法人北海道青少年育成協会理事/北海道新聞社編集局くらし報道部長

野 邊 聡 北海道保健福祉部子ども政策局こども家庭支援課虐待防止対策担当課長

山 村 健 史 北海道PTA連合会事務局員

吉 田 昌 幸 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課課長補佐

令和6年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況



応募校数 275校 応募者数 21,811名

総合振興局・振興局名	開催日	開催場所	参加校(校)	発表者(名)	審査委員(名)	聴取者等(名)	応募総数(名)
空知	7月17日	空知総合振興局	21	11	5	80	755
石狩	7月16日	かでの2・7	7	7	3	34	3,673
後志	7月26日	ニセコ町民センター 1F大ホール	7	14	5	15	15
胆振	7月17日	胆振総合振興局3階会議室A	37	11	3	31	2,897
日高	7月6日	浦河町総合文化会館	15	7	5	47	885
渡島	6月13日	松前町立松前中学校	17	13	4	113	884
檜山	6月28日	せたな町民ふれあいプラザ	10	15	5	243	387
上川	7月12日	上川合同庁舎3階講堂	23	23	5	67	1,310
留萌	7月24日	留萌合同庁舎2階講堂(リモート開催)	8	8	5	—	212
宗谷	7月26日	宗谷合同庁舎講堂	10	9	5	25	203
オホーツク	7月19日	網走市立呼人中学校	14	7	3	61	183
十勝	7月6日	十勝総合振興局3階講堂	47	18	4	54	7,598
釧路	7月31日	釧路市立釧路小学校 体育館	37	8	5	67	1,268
根室	7月10日	別海町生涯学習センターみなくる	20	8	6	86	1,539
札幌市			2	2			2
合計			275	159	63	923	21,811

※札幌市のみ推薦方法が異なるため、他地区と同一条件による集計ができません。

令和6年度「少年の主張」実施要領

1 目的

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していきける、健やかな成長が求められている。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機とすることを目的とする。

2 主催

北海道、公益財団法人北海道青少年育成協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構

3 主管

(総合) 振興局地区大会は各(総合) 振興局、全道大会は保健福祉部とする。

4 対象

北海道内に在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの(以下「中学生」という)。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。なお、作品は未発表、自作のものに限るので、生成AI等を利用して作文の原案を作成したり、自作の作文を推敲するなどということを行わないこと。

5 名称

少年の主張

6 実施方法等

(1) (総合) 振興局地区大会

各(総合) 振興局管内(札幌市を除く)の中学生を対象に主張を発表する場を設定する。

ア 実施方法

大会形式により実施する。

参加者間の公平を損なわない形で、既存ICT機器を用いたりリモート方式を採用することは差し支えない。

イ 募集

- ・教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各学校に対し、周知を図る。
- ・各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等と連携した募集の他、自由公募などにより募集する。
- ・広報媒体を利用した募集に努める。

ウ 発表内容

次のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークな、飾り気のない言葉でまとめたもの。

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ・家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ・テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

※商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする(例えば、「〇〇にある〇〇旅館」を「〇〇にある旅館」に言い換えるなど)。

※楽器、絵画、フリップボード等の小道具を使用したパフォーマンスを取り入れてもよい。

エ 発表時間

5分程度(400字詰原稿用紙4枚程度)

※全国大会の規定が、学校名、氏名、タイトル等の部分学校名、氏名、タイトル等の部分を除く「作文本文の出だし」から「作除く「作文本文の出だし」から「作文本文の終わり」までで作文本文の終わり」までで4分30秒～5分30秒となっているため、この範囲内に収めてください。

オ 審査

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、順位付けし、最優秀者1名及び優秀者2名を決定する。

カ 審査基準

(ア) 論旨

- ・鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ・新しい情報や視点があるか。
- ・個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。

- ・ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ・ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(イ) 論調

- ・ 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ・ 説得力ある話し方であったか。
- ・ 話し振りに熱意と迫力があるか。

キ 実施月（審査月）

ケに定める全道大会の推薦に間に合うよう開催する。

ク 表彰

- ・ 最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。
- ・ 表彰に当たっては、賞状の他、副賞の授与など、地域の実情等に応じ、予算の範囲内で工夫して差し支えない。

ケ 推薦

最優秀者を全道大会参加者として、8月9日（金）までに、保健福祉部に推薦する。最優秀者が参加できない場合は、次位の者を推薦する。

コ その他

別添の地区大会実施要領案を適宜変更して要領を定める。

(2) 全道大会

（総合）振興局からの推薦者各1名及び札幌市中学校長会からの推薦者2名を対象に主張を発表する場を設定し、審査を実施し、最優秀者（1名）及び優秀者（3名）を選考する。

ア 実施方法

大会形式により実施する。

イ 発表内容・発表時間

（総合）振興局地区大会と同様とする。

ウ 審査・選考

- ・ 審査は、関係機関等から推薦された審査員が発表原稿及び大会当日の発表により実施する。
- ・ 審査基準は、（総合）振興局地区大会と同様とする。
- ・ 審査により順位付けし、最優秀者及び優秀者（以下、「入賞者」という。）を選考する。
- ・ 審査結果は、公益財団法人北海道青少年育成協会のホームページ上で発表する。

エ 実施月日

9月6日（金）開催の「北海道青少年育成大会」において実施する。

※また、全道大会での主張発表の模様を、公益財団法人北海道青少年育成協会のホームページ上で、一定期間公開する。

オ 表彰

入賞者には、全道大会席上で賞状及び副賞を授与し、入賞者以外の主張発表者には奨励賞を贈呈する。

カ 全国大会への推薦

全道大会最優秀者を全国大会出場候補者として、独立行政法人国立青少年教育振興機構に推薦する。最優秀者が全国大会に出場できない場合は、優秀者のうち次位の者を推薦する。

キ その他

主張発表者には、道から全道大会参加に係る旅費を支給する。また、主張発表者の引率者（1名）には、公益財団法人北海道青少年育成協会から全道大会引率に係る旅費を支給する。

7 その他

- ・ 主張発表者の原稿は400字詰原稿用紙（A4）縦書きで、本人自筆による原本（障がい等による場合はワープロ可）とする。
- ※異なるサイズの場合、A4サイズに書き直した原稿が必要となりますので、ご留意ください。
- ・ 応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- ・ 原稿の書き出しについては次のとおりとする。

4 行 目	3 行 目	2 行 目	1 行 目
作 文	氏 名	北 海 道	タ イ ト ル
～		学 校	
		学 年	

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並び優秀賞受賞者名簿

年度	最優秀賞 (北海道知事賞)		全国大会	優秀賞 (北海道教育委員会教育長賞、北海道PTA連合会会長賞)			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
S54	利尻町立沓形中学校	池原 広文	出場 総務長官賞				
S55	根室市立光洋中学校	小林 優美	出場				
S56	様似町立様似中学校	川上美穂子					
S57	初山別村立豊岬中学校	高橋 未央	出場				
S58	鹿追町立鹿追中学校	最上佐緒里					
S59	厚沢部町立厚沢部中学校	後藤 晃					
S60	和寒町立和寒中学校	高岡 智扇		札幌市立手稲東中学校	庄田 香織	更別村立更別中央中学校	西川 朋憲
S61	小平町立達布中学校	紅屋 優		美唄市立美唄中学校	堀川 卓郎	稚内市立稚内南中学校	山崎 直美
S62	鶴川町立鶴川中学校	伊藤 奈美	出場	音更町立音更中学校	佐々木詩津子	和寒町立和寒中学校	岡本 百里
S63	砂川市立豊沼中学校	小林ますみ		増毛町立増毛第二中学校	上坂奈緒美	更別村立更別中央中学校	竹川 暢
H 1	江差町立江差中学校	中川 昌子		釧路市立鳥取西中学校	薄井 理砂	別海町立中西別中学校	臼井 貴之
H 2	鹿追町立瓜幕中学校	高橋恵美子		旭川市立広陵中学校	三浦 愛子	初山別村立有明中学校	新田千佳子
H 3	稚内市立稚内東中学校	森田 淳		中札内村立中札内中学校	中西 志香	美幌町立美幌中学校	飯島 紀子
H 4	弟子屈町立弟子屈中学校	横川 心	出場 文部大臣賞	白老町立虎杖中学校	中村有希子	江別市立江北中学校	藤城 正興
H 5	生田原町立生田原中学校	仁木利沙子		浦河町立浦河第一中学校	高田 牧生	別海町立中西別中学校	林 美穂
H 6	生田原町立生田原中学校	前島 由衣	出場	旭川市立六合中学校	中村 沙織	余市町立西中学校	高山 仁美
H 7	幕別町立糠内中学校	中村 郁洋	出場	標茶町立磯分内中学校	岡崎奈未子	札幌市立新陵中学校	出林 裕佳
H 8	滝川市立明苑中学校	紺野友里子	出場	標茶町立磯分内中学校	藤本 智子	富良野市立山部中学校	寺井 正美
H 9	中標津町立広陵中学校	谷口 麻衣		七飯町立大中山中学校	竹安 玄太	苫前町立古丹別中学校	中嶋 卓広
H10	本別町立勇足中学校	岡本あすか		札幌市立北都中学校	野原 梓	天塩町立啓徳中学校	大岩奈々恵
H11	根室市立柏陵中学校	分部 史織		江差町立江差中学校	柴田 優	中富良野町立中富良野中学校	杉原 咲
H12	稚内市立宗谷中学校	熊谷 慶子	出場	釧路市立北中学校	大井里紗	北広島市立西部中学校	畠山 直子
H13	新冠町立新冠中学校	中村みなみ		虻田町立虻田中学校	佐々木千恵	猿払村立拓心中学校	藤井 美咲
H14	共和町立共和中学校	本間 絵美		釧路市立武佐中学校	佐藤くる美	恵山町立東光中学校	佐藤 亜未
H15	釧路市立美原中学校	佐藤 妃奈		岩見沢市立上幌向中学校	森谷 紀治	歌登町立志美宇丹中学校	渡辺のぞみ
H16	熊石町立熊石第二中学校	山脇 恭子		上富良野町立東中中学校	熊谷 佳苗	鶴居村立鶴居中学校	木村 友紀
H17	新十津川町立新十津川中学校	三吉 莉湖		歌登町立歌登中学校	金子 佳美	せたな町立大成中学校	正村 早紀
H18	北斗市立石別中学校	山田 亮一	出場	岩内町立岩内第一中学校	松山亜莉紗	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ
H19	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ		当別町立西当別中学校	萩原 有希	伊達市立長和中学校	本田 舞音
H20	岩内町立岩内第一中学校	熊野 遥華		幌延町立問寒別中学校	佐藤慎之介	池田町立池田中学校	新居 詩穂

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並び優秀賞受賞者名簿

年度	最優秀賞 (北海道知事賞)		全国大会	優秀賞(北海道教育委員会教育長賞、北海道PTA連合会会長賞、北海道青少年育成協会会長賞 H22～)			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
H21	寿都町立寿都中学校	石王 凱騎		礼文町立香深中学校	中島佳奈子	千歳市立富丘中学校	中田 翔哉
H22	遠軽町立生田原中学校	阿部 愛		北海道教育大学付属釧路中学校	恒川 礼奈	増毛町立増毛中学校	加藤 修人
				帯広市立清川中学校	横山くるみ		
H23	別海町立中西別中学校	盛合 樹		苫前町立古丹別中学校	永井 星奈	釧路市立幣舞中学校	田名部あゆみ
				栗山町立栗山中学校	濱谷 珠美		
H24	猿払村立拓心中学校	熊谷 春奈		厚岸町立真龍中学校	山田 唯	札幌市立月寒中学校	安田 りな
				遠別町立遠別中学校	丸山 美月		
H25	帯広市立川西中学校	畠山 優輝		札幌市立平岡中央中学校	高野 大河	釧路市立鳥取西中学校	米内 真志
				江別市立江別第二中学校	最知なるみ		
H26	稚内市立稚内南中学校	熊谷 七海		釧路町立富原中学校	山岸 永和	帯広市立帯広第五中学校	深町 陽奈
				鷹栖町立鷹栖中学校	高木 倅凪		
H27	北海道教育大学附属札幌中学校	前田ほの香		千歳市立勇舞中学校	山田 萌未	帯広市立川西中学校	西野 侑未
				苫小牧市立緑陵中学校	吉岡 美月		
H28	白糖町立庶路中学校	松橋 愛美		豊富町立豊富中学校	伊藤 佑茉	標津町立標津中学校	上田 礼芽
				長沼町立長沼中学校	倉田 友美		
H29	白糖町立白糖中学校	阿部はるか		芦別市立啓成中学校	渡部 胡桃	旭川市立神居東中学校	若林 千夏
				新ひだか町立静内第三中学校	坂本 安侑子		
H30	洞爺湖町立洞爺中学校	毛利 郁也		厚岸町立真龍中学校	車塚花瑠香	岩見沢市立東光中学校	藤塚 麗瑠
				中標津町立広陵中学校	楓川 奈央	美幌町立北中学校 (北海道150年記念 特別賞)	田元 克
R01	登別明日中等教育学校	小路 藍花		帯広市立帯広第四中学校	吉田 千玲	北斗市立茂辺地中学校	房田 心玖
				岩見沢市立清園中学校	谷内 楓		
R03	洞爺湖町立洞爺中学校	吉野 真帆		厚岸町立真龍中学校	伊藤 琉希	美幌町立北中学校	中山 芽依
				和寒町立和寒中学校	佐藤 莉子		
R04	江別市立大麻東中学校	金 美怜	出場	中標津町立中標津中学校	藤浪 あい	長沼町立長沼中学校	岸 楓珂
				厚沢部町立厚沢部中学校	細畑 綾香		
R05	下川町立下川中学校	三浦かな	出場 審査委員会 委員長賞	札幌市立宮の丘中学校	中川 心結	厚真町立厚南中学校	笠原 桜空
				岩見沢市立明成中学校	内崎いおり		

※R2=新型コロナウイルス感染症の影響により、「少年の主張」事業を中止

毎月
第3
日曜日

ほーんわか、ほーっとする日。

道民家庭の日

「道民家庭の日」は
家族みんなでふれあい、
団らんする日です

家族そろって食事をしたり、
家族が団らんする機会を持ちましょう。

家族ふれあい協賛店・
施設を利用しよう!

毎月第3日曜日に子どもを連れた
家族が、料金の割引などのサービス
を受けることができます。

※優待券(コピー可能)の提出が必要です。
ホームページから取得できます。

「道民家庭の日」
イメージキャラクター
ほーほーくん

ホームページ
はこちらから



LINE
はこちらから



令和6年度

「少年の主張」全道大会発表作品集

発行 公益財団法人北海道青少年育成協会

〒060-0005

札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル

TEL (011) 231-6451 FAX (011) 231-6457

URL <http://www.ikuseikyo.jp/>

E-mail youth@ikuseikyo.jp



北の大地に輝け 君の青春

北海道 青少年基金



伸びよう 伸ばそう 青少年

北海道青少年基金にご協力を

🌲 北海道青少年基金は、北海道110年記念事業として、21世紀の北海道の担い手となる若者たちが積極的に社会に参加し、連帯の輪を広げていくことを願って創設されたものです。

🌲 この基金は、青少年の社会貢献活動、文化活動、グループ活動を支援、助長するために活用されます。

🌲 北の大地に躍動する若い力を応援するため、皆様のご協力をお願いいたします。